

友のお供新聞

水戸RC
雑誌委員会

RC財団100周年祝う

アトランタ国際大会



ロータリーの友9月号の表紙

ロータリー財団百年を祝う国際大会が2017年6月、米アトランタで開催されます。内容・規模とも最高の国際大会を目指すそうです。日本からも3000人の参加が見込まれています。
(●横組13P)

大会はアトランタの中心部にあるジョージア・ワールド・コンGRESSセンターが会場で、本会議のほか、分科会、友愛の家が開かれます。世界から4万5000人の参加を目指している

そうです。9月号では、アトランタの魅力も次のように紹介されています。「セントニア・オリンピック公園のある緑から市内のビーチ・トリーストリートの美しい街路樹まで、アトランタの壮大さはまさに『風と共に去りぬ』の世界です」

また、大会期間中、ワイルド・オブ・ユカ・コーラ博物館がロータリアンのためのグルメ夕食会を開催するほか、フォックス劇場では、大会参加者のために『風と共に去りぬ』の特別上映会も予定されています。

日本でも記念シンポ

11月、東京JPタワーで

ロータリー財団百年関連事業は、日本でも記念シンポジウムが11月27日、東京・JPタワーで開催されます。ジョンF・ジャーム国際ロータリー会長が出席、ロータリー財団百年学友世界人道奉仕賞が緒方貞子・元国連難民高等弁務官に授与されます。シンポジウムでは、国連

(●横組24P)

社会的弱者支援

秋田大教育文化学部の柴田健教授が、国際ロータリー第2540地区の基調講演で「社会になじむことが難しい若者支援」について話されています。「引きこもり」や「ニート」は社会的に問題と認識されること

が問題だと指摘。対応として、さりげなく居場所の形成が必要と主張されています。「引きこもり」という言説を変えたいとも。

(■縦組4P)

★広がる被災遺児の奨学金

ロータリー東日本大震災青少年支援連絡協議会のプログラム「ロータリー希望の風奨学金」の経過報告が掲載されています。奨学金給付者は2016年7月現在、プログラム開始以来、269人になっています。

(●横組34P)

★熊本震災チャリティ

5月28日、大分県別府市で全日本RC親睦合唱祭・熊本震災チャリティコンサートが開かれました。大分県も大きな被害を受けましたが、「参加こそ復興につながる」との熱い思いで盛り上がったそうです。

(●横組36P)

★日本RC百年へ

東京ロータリークラブが2020年10月20日、創立百周年を迎えます。つまり日本にロータリークラブが誕生して百年。すでに日本のロータリー百周年委員会が発足。百年史編纂委員会も活動を始めています。

(●横組40P)

★安全な水を提供

中米ニカラグアの町で2千人以上の住民が使う井戸水から大腸菌が検出され、シウダードサンディノRCと米カリフォルニア州のサンタバーバラサンライズRCが安全な飲み水を提供しました。

(●横組43P)

ロータリーの友を読もう

「ロータリーの友」9月号とともに「友のお供新聞」第3号をお届けします。

試行錯誤とはいえ、3回目となれば大分慣れてきました。ただ、いまだ満点の紙面とはいき

ません。毎回、ブラシアップを重ねていくつもりですので、よろしくお付き合いください。

さて、今回の紙面トップは、米アトランタで行われるロータリー財団百年を祝う国際大会です。2番手でも、日本で開かれるロータリー財団百年の記念シンポジウムを取り上げました。ジョンF・ジャーム国際ロータリー会長や、緒方貞子・元国連難民高等弁務官のあいさつも盛り込まれています。

「ロータリーの友」9月号で私も初めて気づいたのですが、7月号からサイズがB5判からA4判に大きくなっています。コンテンツも工夫されているようです。

(風齋)